



地域研究集会

第2回海と漁業と生態系に関する研究集会
黒潮大蛇行期における沿岸カツオ漁の特徴

日時： 2021年1月29日（金）13:30～16:30
開催方法： Web（Microsoft-Teams）方式（URL等の連絡は水産海洋MLにて行う）
コンビーナー： 清藤秀理（水産機構・資源研）・大畑聡（千葉水研セ）・武田保幸（和歌山水試）

- 挨拶： 山下 洋（水産海洋学会 会長）
13:30～13:35
- 趣旨説明： 清藤秀理（水産機構・資源研）
13:35～14:00
- ① 黒潮大蛇行の発生条件・継続期間 瀬藤 聡（水産機構・資源研）
14:00～14:20
- ② 高知県沿岸カツオ漁と黒潮流路との関係 山下慶太郎（高知水試）
14:20～14:40
- ③ 黒潮大蛇行における和歌山県沿岸のカツオ漁況と漁場 山根弘士（和歌山水試）
14:40～15:00
- ④ 静岡近海域におけるカツオ沿岸竿釣春漁と黒潮流路について 上原陽平（静岡水海技研）
15:00～15:20
- ⑤ 黒潮大蛇行期における千葉県沿岸でのカツオひき縄漁の水揚げ状況 大畑 聡（千葉水研セ）
15:20～15:40
- ⑥ 黒潮大蛇行域におけるカツオの行動特性 清藤秀理（水産機構・資源研）
15:40～16:00
- ⑦ 総合討論 16:00～16:30

開催趣旨

2017年から20年ぶりに黒潮の大蛇行が確認され、10月下旬には終了したものの、1965年以降2番目に長い期間だったと言われている（http://www.jamstec.go.jp/j/jamstec_news/20201022/）。黒潮大蛇行は、統計値が蓄積され始めた1965年以降、5回観察されているが、その発生と消滅のメカニズムに関する調査研究は継続中である。沿岸域でのカツオ漁は、黒潮の影響を受けた漁場形成と密接に関係していると考えられているが、詳細な漁場形成メカニズムについては今なお不明点が多い。観測頻度が少ない黒潮大蛇行の特徴とともに沿岸カツオ漁について整理・記録しておくことは、今後の調査研究のための基礎的な知見になると期待される。